

あいちトリエンナーレ 2016 プロデュースオペラ

W.A.モーツァルト作曲 **オペラ『魔笛』** (全2幕、ドイツ語上演、字幕付き、セリフ日本語)**作品について**

作曲：ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト (1756年～1791年)

台本：エマヌエル・シカネーダー (1751年～1812年)

初演：1791年9月30日、アウフ・デア・ヴィーデン劇場 (ウィーン)

原作：クリストフ・マルティン・ヴィーラント 童話集『ジンニスタン』から「ルル、あるいは魔笛」

あらすじ

王子タミーノは、大蛇に襲われているところを3人の女性に助けられる。彼女たちは、夜の女王に仕える侍女だった。侍女らは女王の娘パミーナがザラストロの神殿で捕われの身となっていることをタミーノに伝える。パミーナを助けようと出発するタミーノとお供の鳥刺しパパゲーノに侍女たちは魔法の笛と鈴を渡す。

パミーナが捕われている神殿に到着したタミーノだが、ザラストロの真の姿を知り、パミーナと結ばれるため、ザラストロが課した試練に挑む。パミーナも3人の童子の助けを得ながら試練に挑む。恋を渴望するパパゲーノは試練の途中で脱落するが、老婆の姿に変えられた娘パパゲーナと結ばれる。

娘を奪われ復讐に燃える夜の女王は、侍女たちを引き連れて神殿へ侵入するが、ザラストロたちの前に力を失い、試練を乗り越えたタミーノとパミーナは祝福される。

今回のプロダクションについて

ダンサーとして演出家として、また美術・照明・衣裳などを自ら手掛ける美術家として独創的なセンスにより世界的に高く評価されている勅使川原三郎と、豊かな音楽的才能で注目を集めるイタリア人の若手指揮者ガエタノ・デスピノーサが、モーツァルトが最後に制作したオペラ『魔笛』の新たな魅力を創り出します。

ソリストは、ドイツ・ライプツィヒを拠点に数々の歌劇場で活躍する妻屋秀和、センセーショナルなメトロポリタン歌劇場でのデビューを皮切りにウィーンを拠点に活躍する森谷真理らトップレベル揃い。ベテラン小森輝彦の弁者&神官1役にも注目です。

また、佐東利穂子と東京バレエ団の精鋭によるダンスに加え、セリフをナレーションで入れるのは今回の演出の興味深い点。お馴染みの名古屋フィルハーモニー交響楽団・愛知県芸術劇場合唱団とともに、あいちトリエンナーレならではのオペラの新しい姿を具現化します。

有名な楽曲

- ・ 序曲
- ・ 「俺は鳥刺し *Der Vogelfänger bin ich ja*」 (鳥刺しパパゲーノ・第1幕)
- ・ 「なんと美しい絵姿 *Dies Bildnis ist bezaubert schön*」 (王子タミーノ・第1幕)
- ・ 「復讐の炎は地獄のように我が心に燃え *Der Hölle Rache kocht in meinem Herzen*」 (夜の女王・第2幕)
- ・ 「可愛い娘か女房がいれば *Ein Mädchen oder Weibchen*」 (鳥刺しパパゲーノ・第2幕)
- ・ 「この聖なる殿堂には *In diesen heiligen Hallen*」 (賢者ザラストロ・第2幕)
- ・ 「ああ、私にはわかる、消え失せてしまったことが *Ach, ich fühl's, es ist verschwunden*」 (王女パミーナ・第2幕)

公 演 概 要

項 目	内 容
公 演 名	あいちトリエンナーレ2016 プロデュースオペラ W.A.モーツァルト作曲 オペラ『魔笛』 (全2幕、ドイツ語上演、字幕付き、セリフ日本語)
会 場	愛知県芸術劇場 大ホール (愛知芸術文化センター 2階)
公 演 日 時	2016年 9月17日(土)、19日(月・祝) 両日とも 15:00開演 (14:15開場)
ス タ ッ プ ・ キ ャ ス ト	指揮: ガエタノ・デスピノーサ Gaetano d' ESPINOSA 演出・装置・照明・衣裳: 勅使川原 三郎 (てしがわら さぶろう) 賢者ザラストロ: 妻屋 秀和 (つまや ひでかず) 夜の女王: 高橋 維 (たかはし ゆい) 王子タミーノ: 鈴木 准 (すずき じゅん) 王女パミーナ: 森谷真理 (もりや まり) 鳥刺しパパゲーノ: 宮本 益光 (みやもと ますみつ) 恋人パパゲーナ: 醍醐 園佳 (だいご そのか) 侍女Ⅰ: 北原 瑠美 (きたはら るみ) 侍女Ⅱ: 磯地 美樹 (いそち みき) 侍女Ⅲ: 丸山 奈津美 (まるやま なつみ) 弁者&神官Ⅰ: 小森 輝彦 (こもり てるひこ) 従者モノスタウス: 青柳 素晴 (あおやぎ もとはる) 神官Ⅱ: 高田 正人 (たかだ まさと) 武士Ⅰ: 渡邊 公威 (わたなべ こうい) 武士Ⅱ: 小田桐 貴樹 (おだぎり たかき) ダンサー: 佐東 利穂子 (さとうりほこ)、東京バレエ団 合唱: 愛知県芸術劇場合唱団 管弦楽: 名古屋フィルハーモニー交響楽団
入 場 料 金 (全 席 指 定)	S席 15,000円 A席 12,000円 B席 9,000円 C席 6,000円 D席 3,000円(学生 1,500円) 車椅子席 9,600円 ※未就学のお子さまは入場できません。※学生割引は25歳以下が対象です(要学生証)。 ※団体割引があります(20名以上)。
チケッ ト 取 扱	◆愛知芸術文化センター内プレイガイド ☎052-972-0430 (座席選択可) ◆名古屋市文化振興事業団チケットガイド ☎052-249-9387 (座席選択可) ◆チケットぴあ 【Pコード=290-787】 Web予約 http://t.pia.jp (座席選択可) 店頭購入 チケットぴあ店舗、セブン-イレブン、サークルKサンクス 電話予約 ☎0570-02-9999 ◆アイ・チケット ☎0570-00-5310 http://clanago.com/i-ticket (座席選択可)
発 売 開 始	4月23日(土) 午前10時
主 催	あいちトリエンナーレ実行委員会 愛知県芸術劇場
お 問 い 合 せ	[チケット] クラシック名古屋 ☎052-678-5310 [公演] 愛知県芸術劇場 ☎052-971-5609 http://www.aac.pref.aichi.jp/

ガエタノ・デスピノーサ (Gaetano d'ESPINOSA、指揮)

1978年、イタリアのパレルモで生まれ、パレルモで、ピアノ、ヴァイオリン、作曲を学ぶ。1992年、ヴィットリオ・ヴェネト・コンクール(ヴァイオリン)で最高位を受賞。1995年にミラノに移り、クレモナでサルヴァトーレ・アッカルドに師事。

1996年、ロヴェレ・ドーロ国際音楽コンクール(ヴァイオリン)で最高位を獲得。以降イタリアの数多くのオーケストラに、ソリストとして招かれ、まずはヴァイオリニストとしてのキャリアをスタートさせた。

2003年から2008年まで、ドレスデン国立歌劇場のコンサートマスターを務め、その間、作曲家としても、ヴァイオリン協奏曲をクリスティアン・アルミンクの指揮で、自らソリストを務めドレスデンで初演。



ファビオ・ルイージとの出会いをきっかけに、2008年以降は指揮者としての活動に専念。指揮者として、クレマータ・バルティカ、プラハ・フィルハーモニア管弦楽団、ベルリン室内管、シチリア交響楽団、ドレスデン室内管、フランクフルト・ブランデンブルク州立管、ポズナニ・フィルなどに招かれる。

2010年5月には、ドレスデン国立歌劇場(ゼンパーオペー)で、「椿姫」を3公演指揮し、そのすべてがスタンディング・オベーションとなるセンセーショナルな成功を収める。続いて7月には、ファビオ・ルイージの要請で、ミュージカルアシスタントとして、札幌のパンフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)に参加。

2011年4月、ジェノヴァ歌劇場(カルロ・フェリーチェ)にて、「道化師」を指揮。10月、日本センチュリー交響楽団定期演奏会、群馬交響楽団定期演奏会で、指揮者として日本のオーケストラと初の共演を果たし、鮮烈な印象を与えた。

2012年1月、急遽フランスのリヨン歌劇場に代役として招かれ、プッチーニ・フェスティバルにおいて、プッチーニの3部作「ジャンニ・スキッキ、外套、修道女アンジェリカ」の指揮を託され、各紙からその豊かな音楽的才能を絶賛された。

引き続き、グラーツ歌劇場の「オテロ」、「マリア・ストゥアルダ」に招かれ、4月には、NHK交響楽団にデビュー。演奏者、聴衆の両方から圧倒的な支持を受ける成功を収めた。

イタリアにおいては、ミラノ・ヴェルディ交響楽団との関係を深めつつ、2012年は、ヴェネツィア・フェニーチェ座管弦楽団、フィレンツェ五月音楽祭管弦楽団、ローマ・サンタ・チェチーリア管弦楽団、トリノRAI交響楽団というイタリアを代表するオーケストラに一気にデビュー。

ガエタノ・デスピノーサは、現在注目を集める若手世代の指揮者達のなかでも最も興味深い才能とみなされ、一気に国際舞台における活躍の場を拓いている。

勅使川原 三郎 (てしがわら さぶろう、演出・装置・照明・衣裳)

クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。1985年、宮田佳と共に KARAS を結成し、既存のダンスの枠組みではとらえられない新しい表現を追及。類まれな造形感覚を持って舞台美術、照明デザイン、衣装、音楽構成も自ら手掛ける。光・音・空気・身体によって空間を質的に変化させ創造される、かつてない独創的な舞台作品は、ダンス界にとどまらず、あらゆるアートシーンに衝撃を与えるとともに高く評価され、国内のみならず欧米他、諸外国の主要なフェスティバルおよび劇場の招きにより多数の公演を行う。



©Norifumi Inagaki

自身のソロ作品、KARAS とのグループ作品創作の他にも、パリオペラ座バレエ団などヨーロッパの一流バレエ団からの依頼で作品を創作。日本人振付家として初めての快挙であると同時に、世界的先駆者となっている。

また勅使川原の作り出す複合的な、高い美意識に包まれた世界観は各界で注目されており、2010年にはイタリアベニスフェニーチェ劇場の依頼により、オペラ「Dido and Aeneas」、2011年にはエクサン・プロヴァンスフェスティバルの招待でオペラ「Acis and Galatea」などを演出。造形美術家としても、日本、ドイツ、フランス、イギリス、オーストリア、などに招聘され、インスタレーション作品の創作、展示を行なっている。

また、既成の枠におさまらない実験的映像作品の創作にも意欲的に取り組んでいる。2009年にはシドニーの icinema (centre for interactive cinema research)とのコラボレーション研究の結果 3D 映像インスタレーション Double District を上海、フランスにて発表。2次元の映像に関しても、自らで撮影のみならず編集も手がけ、映像としての身体とその動きの新たな可能性を切り開き、全く次元の違う身体表現の世界を作り出し続けている。

またダンス教育に関しても独自の理念をもち、KARAS 創設以前より常に継続してワークショップを行い、現在に至るまで国内外で若手ダンサーの育成に力を注ぐ。2008年4月に、新国立劇場・富山市オーバードホール・まつもと市民芸術館の3館で10代のダンサー達と共に1年間のワークショップを行い、創作した作品「空気のダンス」を上演し、勅使川原のダンス・メソッドの確かさが高評を得たばかりである。現在はこのプロジェクトで育った若いダンサーの数名がカンパニーの一員として国内外での公演活動に参加しながら、その身体メソッドを継承し続けている。

海外では1995年にはロンドンで1年間に及ぶ若者のための教育プロジェクト S.T.E.P. (Saburo Teshigawara Education Project) を設立、1999～2000年には S.T.E.P.2000 を発足しロンドンとヘルシンキの共同企画公演「Flower Eyes」へと展開した。ここでもやはりワークショップに重きをおき、1年かけての準備がそれぞれに行なわれている。

その他、ローレックス メンター&プロトジェ アートプログラムのメンター(指導者)を委託され、1年間(2004～2005年)に渡り若手芸術家育成支援事業に関わった。

2006年度から2013年度は立教大学現代心理学部映像身体学科において、また2014年度からは、多摩美術大学美術学部演劇舞踊デザイン学科の教授として教育現場における新世代との創造活動にも熱い意欲を注いでいる。

その他にも執筆活動を行うなど、芸術表現の様々な局面で常に新たな可能性を切り開いていくアーティストとして、国際的な注目を集めている。

妻屋 秀和（つまや ひでかず、バス、賢者ザラストロ役）

大阪府出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。第24回ジローオペラ賞受賞、第3回ロシヤ歌曲賞受賞。1992年よりミラノに留学。1994年から2001年までライプツィヒ歌劇場、2002年から2011年までワイマールのドイツ国民劇場の専属歌手を務めた。プレゲンツ湖上音楽祭、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、新国立劇場等多くの劇場で活躍。ヨーロッパ、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R. シュトラウス等のオペラの主要な役を多くの著名な指揮者、演出家、歌手と共演。



これまでに出演したオペラは60余作、演じた役は80役、公演数は800を超える。2016年1月『魔笛』ザラストロで、新国立劇場出演200回を達成。2016-17年シーズン、同劇場では、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『カルメン』スニガ、『ランメルモールのルチア』ライモンド等、東京二期会『フィガロの結婚』ドン・バルトロに出演予定。恵まれた体躯と深みのある柔らかな歌声と重厚な演技で舞台上において圧倒的な存在感を醸し出している。

オペラのみならずオーケストラ・コンサート、宗教曲のソリストとして、また経験に基づいたマスター・クラスなど教育活動にも取り組んでいる。

ライプツィヒ在住。二期会会員

高橋 維（たかはし ゆい、ソプラノ、夜の女王役）

新潟県出身。東京学芸大学中等教員養成課程声楽専攻、同大学大学院音楽教育専攻音楽コース修了。東京藝術大学大学院修士課程独唱専攻修了。在学時に第31回台東第九公演、中央区第九のソリストで出演し、現在発売中の東京藝術大学出版「フランスの詩と歌の愉しみ」（大森晋輔著）のCD録音に参加する。二期会オペラ研修所マスタークラス修了。修了時に奨励賞、優秀賞受賞。第44回新潟県音楽コンクール大賞受賞。第27回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。



オペラでは『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『魔笛』夜の女王、『リゴレット』ジルダ、『こうもり』アデーレ、イーダなど出演。2015年は二期会ニューウェーブオペラ『ジュリーオ・チェーザレ』（鈴木秀美指揮・菅尾友演出）クレオパトラ、東京二期会とリンツ州立劇場共同制作『魔笛』（デニス・ラッセル・デイヴィス指揮・宮本亜門演出）夜の女王、日生劇場との共催公演『ウィーン気質』（阪哲朗指揮・荻田浩一演出）ペピに続けて出演を果たし、好評を博した。

コンサートでも、ヴィヴァルディ「グローリア」、ヘンデル「メサイア」、バッハ「コーヒー・カンタータ」等で活躍している。

2016年7月東京二期会『フィガロの結婚』（サッシャ・ゲッツェル指揮・宮本亜門演出）スザンナに出演予定。二期会会員

鈴木 准 (すずき じゅん、テノール、王子タミーノ役)

北海道出身。北星学園大学文学部、東京藝術大学声楽科卒業。同大学大学院修士課程独唱科修了。同大学院博士後期課程にて音楽博士学位取得。1999年よりバッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとしてサントリーホール「マタイ受難曲」を始め、国内外の公演、録音に参加。H.リリング指揮・バッハ「ロ短調ミサ」、S.カンブレラン指揮・モーツァルト「レクイエム」等数多くの宗教曲を演奏。オペラでは、『ドン・ジョヴァンニ』『ドン・オッターヴィオ』『コジ・ファン・トゥッテ』フェランドの他、とりわけ『魔笛』タミーノは、佐渡裕指揮・兵庫芸術文化センター、上岡敏之指揮・日生劇場、T.グシュルバウアー指揮・東京二期会と立て続けに演じている。また、B.ブリテンの声楽作品への取組みは目ざましく、2012年『カーリユー・リヴァー』狂女をロンドン、オーストリアで演じ国際的評価を得た。2013年新国立劇場『タンホイザー』ハインリヒ、兵庫芸術文化センター『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、2014年びわ湖ホール『死の都』パウル、新国立劇場『鹿鳴館』久雄等出演。2015年新国立劇場『沈黙』モキチ、東京二期会『魔笛』(宮本亜門演出)タミーノ等出演。コンサートでは、バッハ「ヨハネ受難曲」「クリスマス・オラトリオ」「ロ短調ミサ」、モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」「ミサ・ソレムニス」等宗教曲を中心に活躍している。二期会会員



森谷 真理 (もりや まり、ソプラノ、王女パミーナ役)

栃木県出身。武蔵野音楽大学卒業。同大学大学院及びニューヨーク・マネス音楽院修了。第5回ヴェロニカ・ダン国際声楽コンクール1位、第2回チャールズ・A・リーナム声楽コンクール第1位等国際コンクールで受賞歴多数。

メトロポリタン・オペラにて、ジェームズ・レヴァイン指揮『魔笛』夜の女王でアメリカ・デビューを飾った。夜の女王役では、ウィーン・フォルクスオーパー、ライブツィヒ歌劇場、スコティッシュ・オペラ、グラインドボーン音楽祭のツアー等で出演。アメリカでは、夜の女王役に加えて、『愛の妙薬』アディーナ、『ランメルモールのルチア』ルチア、『ロメオとジュリエット』ジュリエット、『フィガロの結婚』スザンナ等を歌っている。

ヨーロッパ・デビューは、2007/08シーズンにアイルランド・オペラ『トゥーランドット』リユー。その後、オーストリア・リンツ州立劇場の専属歌手として『ラクメ』『マリア・スタウアルダ』タイトルロール、『バラの騎士』ゾフィー、『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ラ・ボエーム』ミミ、『チェネレントラ』クロリンダ、宮本亜門演出による『魔笛』夜の女王、パミーナ両役などに出演している。加えて、リンツ・ブルックナー管弦楽団とベートーヴェン「第九」ソリストとしても共演している。

14/15シーズンは、びわ湖ホール『リゴレット』ジルダ、フランダースオペラ『アクナーテン』タイ女王、イスラエルカメラータとのコンサートツアー、リンツ州立劇場にて『魔笛』夜の女王、『ばらの騎士』ゾフィー、15/16シーズンはリンツ州立劇場『椿姫』ヴィオレッタ、ライブツィヒ歌劇場及びバーゼル劇場で『魔笛』夜の女王に出演。同年東京二期会『魔笛』夜の女王で絶賛を博す。2016年兵庫県立芸術文化センター『夏の夜の夢』ティターニア、日生劇場『後宮からの逃走』コンスタンツェ、名古屋フィルハーモニー交響楽団『第九』で出演予定。ウィーン在住。二期会会員



宮本 益光 (みやもと ますみつ、バリトン、鳥刺しパパゲーノ役)



愛媛県出身。東京藝術大学卒業、同大学大学院博士課程修了。2003年『欲望という名の電車』スタンリーで脚光を浴び、翌年の『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールで衝撃的な二期会デビュー。近年では2010年神奈川県民ホール・びわ湖ホール『ラ・ボエーム』マルチェッロ、新国立劇場『鹿鳴館』清原永之輔、日生劇場『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ、2011年東京二期会『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、日生劇場開場50周年記念『メデア』イヤソン、2013年東京二期会『こうもり』ファルケ、新国立劇場『夜叉が池』(世界初演) 学円、日生劇場開場50周年記念『リア』(日本初演) オルバニー侯爵、2014年新国立劇場『鹿鳴館』(再演) 清原永之輔、東京二期会『チャールダーシュの女王』フェリバーチ等、常に大舞台で活躍。2015年12月には神奈川県民ホール40周年記念『金閣寺』溝口で出演し、絶賛を浴びている。

コンサートでも「第九」や宗教曲でも読売日響、東京交響楽団、日本フィル等と共演。古典作品から現代作品、邦人作品までそのレパートリーは幅広く、読売日響「フランケンシュタイン!!」(作曲:HK グルーバー)も大きな話題を呼んだ。

CD「おやすみ」、「あしたのうた」、「碧のイタリア歌曲」をリリースの他、DVD「宮本益光リサイタル～日本語訳詞で聴くオペラ名場面集」、著作に「宮本益光とオペラへ行こう」、自ら作詞した歌曲の詞をまとめた詩集「もしも歌がなかったら」等がある。二期会会員

小森 輝彦 (こもり てるひこ、バリトン、弁者&神官I役)



東京都出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。文化庁オペラ研修所、ベルリン芸術大学で学ぶ。五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。日本人として初めてドイツ宮廷歌手の称号を授与された。12年の長きに渡ってドイツ、テューリンゲン州のアルテンブルク・ゲラ市立歌劇場で専属第一バリトンを務め、同劇場ではリゴレット役でのセンセーショナルなデビューの後、『ドン・ジョヴァンニ』、『ナブッコ』、『さまよえるオランダ人』、『ヴォツェック』、『オテロ』ヤーゴ、『トスカ』スカルピアなどを歌い、そのどれもが絶賛された。「この劇場を引っ張るスター・バリトン」(ドイツ中部放送)と評され、投票で選ぶ最優秀歌手「テアター・オスカー」も名誉オスカーを含め計5回受賞。日本帰国に際して行われた劇場協会主催のお別れコンサートと最終オペラ公演では、別れを惜しむ満場の聴衆のスタンディングオベーションを受けた。

ヨーロッパデビューは1999年プラハ州立歌劇場での『椿姫』ジェルモン。ザルツブルク音楽祭祝祭大劇場に、ヘントツェ作曲『午後の曳航』首領役で出演。

帰国後も、東京二期会『マクベス』『ホフマン物語』『ダナエの愛』、日生劇場『リア』(日本初演)、新国立劇場『さまよえるオランダ人』(演奏会形式)他に主演。2015年神奈川県民ホール開館40周年記念『金閣寺』溝口で主演し、絶賛を博す。2016年1月ロームシアター京都プロデュース・オペラ『フィデリオ』ドン・ピツァロでも好評を博した。2016年5-6月新国立劇場『ローエン格林』、同年7月東京二期会『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵に出演予定。「天地創造」「エリヤ」「第九」「ドイツ・レクイエム」等コンサートソリストとしても活躍している。東京音楽大学教授。二期会会員

醍醐 園佳 (だいが そのか、ソプラノ、恋人パパゲーナ役)

東京都出身。東京音楽大学声楽演奏家コースを首席にて卒業。同大学大学院修士課程(オペラ科)修了。卒業時に NTT ドコモより奨学金を得る。二期会オペラ研修所マスタークラス修了、修了時に優秀賞受賞。第 17 回日本声楽コンクール入賞、第 24 回ソレイユ新人オーディション優秀賞。第 27 回読売新人演奏会出演。

オペラでは 2014 年東京二期会・日生劇場共催『チャールダーシュの女王』シルヴァ・ヴァレスクに抜擢され主演、好評を博した。2015 年にも同『ウィーン気質』フランツィスカ・カリアリに出演。コンサート・ソリストとしても、2015 年小澤征爾音楽塾 京都・二条城特別公演「第九」(小澤征爾指揮)に出演するなど活躍の場を広げている。二期会会員



北原 瑠美 (きたはら るみ、ソプラノ、侍女 I 役)

千葉県出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院独唱科修士課程修了。二期会オペラ研修所プロフェッショナルコース修了。修了時に中山悌一賞を受賞。その後イタリアにて研鑽を積む。これまでに、日生劇場『フィガロの結婚』(広上淳一指揮)伯爵夫人をはじめ、モーツァルト『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、ドニゼッティ『愛の妙薬』アディーナ、ヴェルディ『椿姫』ヴィオレッタ、レオンカヴァッロ『道化師』ネッダ、2015 年は東京二期会・リッツ歌劇場共同制作『魔笛』侍女 1 で出演した。『ロックオペラ モーツァルト』『サクラ大戦ライブ 2013』等ミュージカルにも出演、幅広く活躍している。二期会会員



磯地 美樹 (いそち みき、ソプラノ、侍女 II 役)

千葉県出身。東京藝術大学声楽科卒業。同大学別科修了。二期会オペラ研修所マスタークラス修了、修了時に優秀賞受賞。同プロフェッショナルコース特修修了、第 1 回中山悌一賞受賞。ドイツのフランクフルト音楽大学に留学、Aufbau A Studium 修了。オペラでは、『カルメン』、『皇帝ティートの慈悲』、『ファルスタッフ』、『ウェルテル』、『ナクソス島のアリアドネ』、『ラ・トラヴィアータ』等多数出演。2007 年東京二期会『ワルキューレ』ヴァルトラウテ、2009 年日生劇場『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼルで絶賛を博す。2015 年東京二期会『ダナエの愛』アルクメネ、同『魔笛』侍女 II で出演。2010 年、12 年、15 年に、チェコ、ドイツ、スペインでのコンサートツアーに出演、好評を博した。二期会会員



丸山 奈津美（まるやま なつみ、コントラルト、侍女Ⅲ役）

東京音楽大学声楽科卒業、同研究科声楽専攻修了。2001年にローマへ短期留学し2005年からは毎年ローマに渡り、Silvia Silveri 女史に師事。オペラには『魔笛』侍女Ⅲでデビュー後『イル・トロヴァトーレ』『蝶々夫人』『ミニヨン』『海へ騎りゆく者たち』『サンドリヨン』『マルタ』『泥棒とオールドミス』『ヘンゼルとグレーテル』をはじめ、コントラルトを必要とされる作品に数多く出演し、新作創作オペラ、日本初演の作品等にも積極的に出演している。タイ日友好コンサートでは、第九アルトソロをつとめた。東京オペラプロデュースメンバー。<http://primadonna626.wix.com/sonocantante>



青柳 素晴（あおやぎ もとはる、テノール、従者モノスタトゥス役）

福岡県出身。国立音楽大学卒業。ベルリン、ハンス・アイスラー音楽大学で研鑽を積む。同地で『魔弾の射手』マックス、『道化師』ペッペ等に出演。

2004年二期会オペラデビューとなった『イェヌーファ』ラツァで好評を博す。2005年東京二期会・ハノーファー州立歌劇場共同制作『さまよえるオランダ人』エリックで絶賛され、2006年にはハノーファーで同演出、同役を演じ、好評を得た。その後も、東京二期会『ダフネ』（日本初演）アポロ、同『天国と地獄』プルート、同『ナクソス島のアリアドネ』テノール歌手／バックス等出演。2015年東京二期会『魔笛』モノスタトゥスでも抜群の存在感を示した。コンサートでも、「ミサ・ソレムニス」「第九」「嘆きの歌」等で活躍している。二期会会員



高田 正人（たかだ まさと、テノール、神官Ⅱ役）

栃木県出身。東京藝術大学卒業。同大学大学院修了。二期会オペラスタジオ修了。イタリア政府給費奨学生としてイタリアへ留学。また文化庁在外研修員としてニューヨークにて研鑽を積む。小澤征爾音楽塾特別演奏会『カルメン』、NHK交響楽団『ラ・ボエーム』（N・サンティ指揮）、東京二期会『ラ・トラヴィアータ』、同『サロメ』等出演。その後も、2013年東京二期会『こうもり』アルフレード、日生劇場『リア』コーンウォール公、2014年東京二期会『チャールダーシュの女王』ボニ、2015年同『ダナエの愛』（準・メルクル指揮）ポルクス等出演。2016年7月東京二期会『フィガロの結婚』ドン・バジリオで出演予定。オペラ界のスターによる男声ユニット“The JADE”メンバー。二期会会員



渡邊 公威（わたなべ こうい、テノール、武士Ⅰ役）

宮城県出身。国立音楽大学卒業、同大学大学院修了。文化庁在外研修員としてローマに留学。E.カルーソー国際声楽コンクール、オルヴィエート国際声楽コンクール、Vissi d'arte 国際声楽コンクール、日本声楽コンクール等に入賞。『ドン・ジョヴァンニ』『コジ・ファン・トゥッテ』『魔笛』『ラ・ボエーム』『愛の妙薬』『秘密の結婚』等に出演の他、大阪フィル『サムソンとデリラ』（演奏会形式）、東京二期会『ウリッセの帰還』『カプリッチョ』『リゴレット』等出演。コンサートでも「メサイア」、「第九」、シューベルト「ト短調ミサ曲」等で多くのオーケストラ、合唱団と共演している。2016年7月東京二期会『フィガロの結婚』『ドン・クルツィオ』で出演予定。二期会会員



小田切 貴樹（おだぎり たかき、バス、武士Ⅱ役）

北海道出身。昭和音楽大学卒業。日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。1998年昭和音楽大学オペラ『愛の妙薬』のドゥルカマーラでデビュー後、同公演で『夢遊病の娘』ロドルフォ、『ルチア』ライモンド、『ピア・デ・トロメイ』ピエロに出演。藤原歌劇団には、08年『どろぼうかささぎ』エルネストでデビューし、『ラ・ジョコンダ』、『ルチア』、『ファルスタッフ』、『仮面舞踏会』の他、文化庁本物の舞台芸術体験事業『カルメン』『魔笛』に出演。日本オペラ協会には、03年『美女と野獣』小悪魔＜死神＞でデビュー。その他これまでに、『ラ・ボエーム』『ラ・ジョコンダ』『フィガロの結婚』『アイナダマール』等、多数のオペラ公演で活躍している。藤原歌劇団団員。



佐東 利穂子（さとう りほこ、ダンサー）

1995年からKARASワークショップに参加。1996年より勅使川原三郎振付の全グループ作品に出演。勅使川原作品のソリストとして国際的に活躍し、各国で熱狂的な反応を巻き起こしている。

2005年ローマ初演の「Scream and Whisper」で仏・伊のダンス雑誌「Ballet2000」の2005年度年間最優秀ダンサー賞、『消息』で、2007年度日本ダンスフォーラム賞、2012年には第40回レオニード・マシーン賞を受賞、第47回舞踊批評家協会賞 新人賞を受賞。

「横浜トリエンナーレ 2008」では、ガラスの破片の敷き詰められたインスタレーションの中で5時間ぶっ通しのパフォーマンスを敢行。刃物のような鋭利さから、空間に溶け入るような感覚まで、質感を自在に変化させる佐東のダンスは、身体空間の新たな次元を切り開く芸術表現として注目を集めている。

勅使川原作品の振付・演出助手も務めており、KARAS作品のみならず、「AIR」（パリ・オペラ座バレエ団）等の勅使川原の他舞踊団への振付作品でもダンス・ミストレスの役割を担っている。

また、勅使川原の教育プロジェクト「空気のダンス」、S.T.E.P. (Saburo Teshigawara Education Project)、ニューカッスルでのKARASサマー・セミナー他でワークショップを行うなど、青少年のダンス教育にも積極的に取り組んでいる。



©Saburo Teshigawara